



いろどり

埼玉大会

⑤ 彩の国 ⑥ い ⑦ た ⑧ ま
彩の国 今こそ助けあい 学び合おう

文部科学省行政説明

文部科学省大臣官房
学習基盤審議官

茂里 毅 氏

文部科学省行政説明では、はじめに「政府全体の動き」として、デジタルの活用により、一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会を目指していると御説明がありました。そのデジタル社会の実現に向けた取組としてICTを活用した個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実や、プログラミング教育の必修化・内容の充実によるデジタル人材の育成・確保などの六つの方針を示されました。

そのための施策として、GIGAスクール構想に基づくICT環境整備に向け、令和3年度補正予算にて指導者用端末や電子黒板など授業環境高度化に84億円を計上し、さらに、新たな学びの環境整備のため、小学校高学年の教科担任制推進に向けて、令和4年度の950人の定数改善などの取組を紹介されました。また、働き方改革では教員免許更新制の廃止に向けて、通常国会での法案提出が予定されていることも御説明いただきました。

結びに事務職員への期待として、新型コロナウイルス感染症対策や働き方改革などの課題に対し、チーム学校の一員として事務職員も活躍し、一丸となって取り組んで乗り越えていただきたい、と激励の御言葉を頂戴しました。



本部研究分科会

全事研本部

～研究討議～

本部研究分科会では、討議1として、「新たな学びを実現する地域協働の在り方」について、討議2として、「地域協働を推進する事務職員・共同学校事務室の役割」について、研究討議を行いました。

討議1では、「皆さんの学校でもそれぞれに地域との連携・協働が進められていると思いますが、どのような活動を行っていますか？」との問いかけに、参加者からの発言と意見フォームへの書込がありました。その後、助言者の新座市立野火止小学校長の近藤章宏氏から「『学校経営計画の承認と外部評価』と『教育課程や教育環境整備への支援』はコミュニティスクールを推進していく上での両輪として重要である」と御助言がありました。

続く討議2では、「地域協働を推進するために事務職員として、どんなことをしていますか、またはどんなことをしていきたいですか？」というテーマで、ブレ

イクアウトルームで意見交換した後、すでに取り組んでいる方の事例、取り組む上での現状における課題や、もっておきたい意識について、全体場で意見を交換しました。

東日本の方からも西日本の方からも発言があり、全国大会ならではの活発な意見交換がされた後、助言者の近藤章宏氏から、地域協働に取り組む上での心掛けておきたいことなどを含めた御助言と事務職員へのエールを頂きました。その詳細については、2月18日まで公開されている録画配信を御覧ください。

今回の研究討議終了後のインタビューでは、「討議を受けて、協働体制を構築し、学校づくりと地域づくりを担う事務職員・共同学校事務室への第一歩を踏み出してほしい」と語られました。会員の皆様におかれましても、是非とも動画を視聴して、その想いを受け取ってください。

本日の討議

討議1
「新たな学びを実現する地域協働の在り方」

討議2
「地域協働を推進する事務職員・共同学校事務室の役割」



地域協働を推進するために事務職員として、
どんなことをしていますか、
またはどんなことをしていきたいですか？

ブレイクアウトルームで交換
共有してみましょ

←コメントはこちらへ！



さいたまめめしき 心をこめた伝統の技、「雛人形」（鴻巣市、さいたま市岩槻区 ほか）≪埼玉の特産①≫

第2分科会

栃木支部

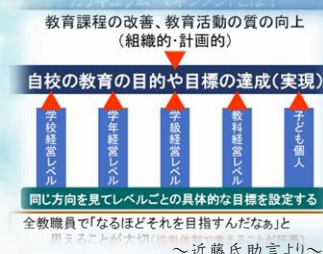
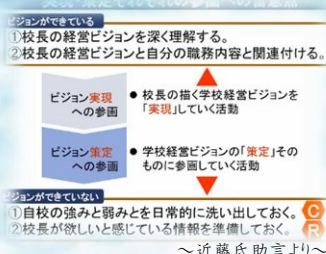
～研究討議～

第2分科会（栃木支部）は、「子どもの学びの充実を図る学校事務―「実践」から見た学校経営参画―」をテーマとして、討議1「とちぎの戦略、学校経営参画の姿」、討議2「学校経営参画、その先にあるものは」の二つの柱で、学校経営に参画する事務職員の仕事の広がりについて議論を交わしました。

討議1では、若手事務職員の実践の紹介を交え、学校経営ビジョンの「実現」を通じた「策定」への参画について、その役割・仕事を明らかにし、これからの事務職員が、どのような資質をもち、具体的な役割を担っていくのかについて栃木支部の考えが示されました。

討議2では、学校経営とカリキュラムマネジメントの関係性や、地域協働への参画を通して、事務職員のこれからの仕事について考えていく場となりました。助言者の近藤秀人氏は「事務職員の力量形成において、情報収集と情報発信に注力し、経営参画を意識することが大切である」と述べられました。また、助言者の風岡治氏からは、「新しい学校に求められる戦略を実現する力量を身につけることが重要」との御意見を頂戴しました。

たくさんの資料も提示され、「使命感をもって実践を積み重ね、参画していく」という強い思いを共有できる研究討議が繰り広げられました。



第3分科会

群馬支部

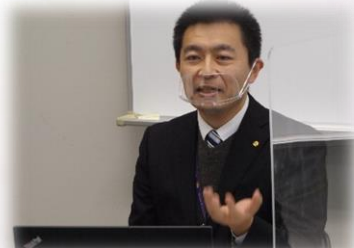
～研究討議～

第3分科会（群馬支部）は、「学校と地域がともにつくる子どもたちの未来―やってみよう！地域協働のファーストステップ―」をテーマに研究討議を行いました。

事務職員が地域との連携・協働にかかわるための「連携・協働指標」と、その際に参考となるよう作成した「実践事例集」について提案され、寄せられた意見の紹介の後、助言者の根岸登氏より社会教育・生涯学習の視点を踏まえた御助言がありました。

続いて、「Live!アンケート」を活用して討議を行いました。討議は、「①地域協働への第一歩を目指して」、「②業務の定着化へ向けて」、「③学校

と地域をつなぐ事務職員の可能性」の三つの柱に沿って行われました。「②業務の定着化へ向けて」では、地域との連携・協働にかかわる上での不安・課題として、事務職員の負担増加や個人の能力差などが挙げられ、提案者からは「既存の事務処理を地域との連携・協働に生かすこと」や、「共同実施（共同学校事務室）や行政と共に組織として継続的に取り組むこと」の重要性が述べられるなど、活発な議論が終始交わされていました。さらに、研究討議終了後も交流できるようアンケートを活用しており、様々な意見が寄せられています。



さいたまめちしき ちょっと意外な日本一、「段ボール」（川口市 ほか）《埼玉の特産②》

第4分科会

千葉支部

～研究討議～

第4分科会（千葉支部）では、「みんなの願いをカタチに一総合的判断力をもった事務職員の戦略的な情報発信」というテーマで提案が行われました。

研究討議では、はじめに討議全体のキーワードとして「翻訳」という言葉が挙げられました。討議の進行に当たり、参加者の意見を共有できるよう、アンケートやワードクラウドといった機能が使われ、討議を通して、多くの参加者が「地域とともにある学校づくり」と「翻訳」のつながりをイメージできる結果となりました。

また、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使用し、参加者同士による討議も行われました。話合

いのテーマは「地域協働において、事務職員、共同実施はどのような情報発信をすべきか」とし、総合的判断力をもった事務職員の姿などを意識した意見交換が行われました。

討議の最後には、助言者である千葉県成田市立西中学校校長の藤崎修治氏から、二つの側面から見た「情報」をマネジメントするとはどういうことか、学校教育による利益はだれのものかなどのたくさんの御助言に加え、私たち事務職員へ向けたエールを頂くことができ、実り多い研究討議となりました。



第5分科会

山梨支部

～研究討議～

第5分科会（山梨支部）は、「やってみるじゃん！自ら発信する学校経営参画—信頼される学校事務 スクールソムリエをめざして—」をテーマに提案を行いました。

研究討議は「①自ら発信する学校経営参画とは」「②学校経営参画が進むことの意義」の2本柱で行われました。まず、山梨支部長による司会のリードで、研究討議参加者から学校経営参画の実践例が数多く寄せられました。研究討議参加者からの質問に対しては、提案者から「スクールソムリエ（目指す学校事務職員像）」実現へのグランドデザインの重点が説明され、会員への浸透を図るためのロードマ

ップが示されました。また、研究討議の中では、Zoomのチャット機能を使って全国の参加者からの様々な実践例を共有することができました。さらに意見交流の中から自分も挑戦してみたいなど前向きな意見も多く、参加者は気づきがたくさんあったようでした。

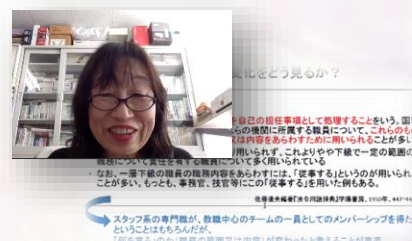
最後に助言者の平井貴美代氏から、スクールソムリエを指しながら、今がまさに職務の範囲・内容を設定していくチャンスであるとの御助言があり、事務職員が子どもたちの豊かな育ちを支援し経営的視点をもって自ら発信する学校経営参画を目指していくことの重要性が確認できました。



予算委員会に参加している皆さんにお伺いします。

- ・参加することになったきっかけ
- ・具体的にどんなことを行っているのか
- ・参加してみての感想(メリット・デメリット) ...etc

挙手、またはチャットでご発言をお願いします



さいたまめちしき 埼玉限定ジュシー梨、「彩玉」（久喜市、加須市、白岡市 ほか）《埼玉の特産③》

県内でしか入手できない埼玉オリジナル品種の梨「彩玉（さいぎょく）」は、幸水より甘く、豊水より大きく、そしてジュシー！ 昭和59年に交雑が行われ、平成17年に品種登録したという、長年の努力が実った果実です。お見かけの際は是非お召し上がりください。

第6分科会

埼玉支部

～研究討議～

第6分科会（埼玉支部）は、「未来を創る子どもたちのために事務職員が果たす役割ー「総務」「財務」の面から学校と地域をつなぐー」をテーマに掲げ、「地域と事務職員の役割」と「事務職員に必要な力量と研修制度」の二つを討議の柱に据えて意見の交換を行いました。そのなかで、地域とともにある学校づくりにおける事務職員の役割について、Zoomのチャット機能などを使って、全国の学校から実際に行われている様々な取組を募り、その内容を基に議論を交わしました。

そのなかから山形県と福井県の学校の取組が紹介され、これらの取組は埼玉県に例が少なく参加者の

興味が集まりました。

その後、三名の助言者からの御助言があり、狭山市学校支援ボランティアセンター事務局長の山田恵一氏が、山形県の取組を通してコーディネーターとしての事務職員の役割を、上尾市立東町小学校長の加藤雅教氏が、福井県の事例を通して取組を始めることの重要性を説かれました。また、兵庫教育大学大学院教授の川上泰彦氏が、減点主義と加点主義の二つの観点から事務職員に必要な知識と力量について述べられるなど、三者三様のアドバイスとエールを頂戴し、内容の濃い研究討議となりました。



埼玉支部が考える地域とともにある学校づくりにおける事務職員が果たすべき役割

- ①地域との良好な関係の構築
- ②事務職員として説明責任を果たす
- ③目標達成に向けて行う諸活動と学校内外の資源を結び付ける



～お知らせ～

第1分科会（山形支部）は、ライブ配信の研究討議を行わず、皆様からいただいた御質問・御意見に対する回答を、大会ページに掲載しています。次号の速報第5号で御紹介します。

大会アンケートを、2月8日（火）～2月25日（金）に実施しています。今後の大会運営・研究活動に生かしてまいりますので、是非たくさんの御意見をお寄せください！